

災害時要援護者(高齢者や障がい者等)を守る地域づくりセミナー

○ セミナーの目的

東日本大震災では、高齢者の死者数や障がい者の死亡率が高く、消防団や民生委員等の支援者も犠牲になりました。一方で、昨年度の北部九州豪雨災害では、地域ぐるみの避難・近隣の助け合いが要援護者の命を救っています。

本セミナーでは、今年度県事業でモデル的に地域づくりに取り組んできた4地域の取組発表を通じた地域づくりについて学ぶとともに、備蓄物資の展示や非常食の作り方など県民の日常生活に役立つ知識を得ることを目的に開催します。

日時

平成26年2月5日(水)
13時～16時30分

場所

音の泉ホール
(iichiko総合文化センター 5階)

参加

参加費無料
来場者は備蓄食をプレゼント!(700食限定)

■■ 第1部 (13時10分～14時10分) ■■

地域における災害対策のあり方 [基調講演]

《講師》山崎 栄一 氏 (国立大学法人大分大学教育福祉科学部 准教授)

これまで被災者支援法制や高齢者・障がい者等災害時要援護者の支援等について研究をされてきた山崎先生から、地域で行うべき災害対策について学びます。

■■ 第2部 (14時10分～14時40分) ■■

被災者も支援者も一緒につくる非常食 [実演]

《講師》木ノ下 勝矢 氏 (NPO法人レスキューサポート九州 代表理事)

家庭で行う備蓄食の紹介と、実際に災害時にできる非常食の作り方(火を使わない等)を実演を交えて紹介します。

■■ 第3部 (14時50分～16時30分) ■■

災害時要援護者(高齢者や障がい者等)を守る地域づくり事例発表

《コメンテーター》山崎 栄一 氏

《事例発表者》中津市山国町中摩地区
佐伯市蒲江町丸市尾地区
津久見市青江赤垣地区
豊後高田市呉崎地区

今年度、地域の体制づくりや実際の避難訓練までを実施してきた4地区がそれぞれ取組を発表し、地域での課題や解決方法を皆さんと共有します。

会場では、各種展示も行いますので、ぜひ手にとってご覧ください

- ・簡易パーテーションや段ポールベッドなど避難所支援用具の展示
- ・避難生活に必要な備蓄物資の展示(3日分)

自分の命は自分で守る

地域による地域のための支援について学ぶ

モデル地域の概要

中津市山国町中摩

人口:232人
世帯数:92世帯
要援護者数:32人

○人口減少が進む山国地区においては比較的人口が密集した地域。高齢化率46.6%。

○H24.7月の豪雨災害時には、甚大な被害を受けた。

佐伯市蒲江丸市尾

人口:375人
世帯数:174世帯
要援護者数:23人

○リアス式海岸に面した地域。漁業に従事している者が多い。

○大分県津波浸水予測調査結果では、南海トラフ巨大地震の最大津波高13.5m、1m波高津波到達時間26分。

津久見市青江赤垣

人口:157人
世帯数:55世帯
要援護者数:20人

○上流にある青江ダムから流れる青江川が地区を南北に二分。

○地区社協において先進的で活発な活動を行っている。

○豪雨による土砂災害の可能性が高い。

豊後高田市呉崎

人口:96人
世帯数:43世帯
要援護者数:5人

○海岸線を埋め立てた干拓地。

○過去大きな天災がなかった地域だが、周防灘断層地震による津波や、地盤の液化現象による被害に備える必要があ

参加申込書

| | |
|-------|--|
| お名前 | |
| 所属団体等 | |
| 居住市町村 | |
| 連絡先 | |

申込み・問い合わせ先 大分県福祉保健部地域福祉推進室 地域福祉班
〒870-8501 大分市大手町3丁目1番1号
電話:097-506-2620 FAX:097-506-1732
e-mail :a12030@pref.oita.lg.jp

※電話、FAX、eメールのいずれの方法でお申し込みください。